

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

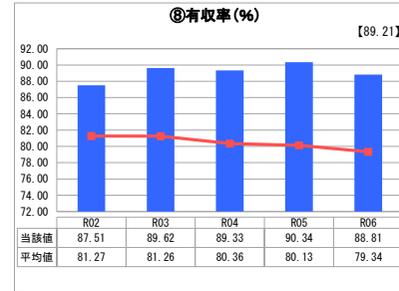
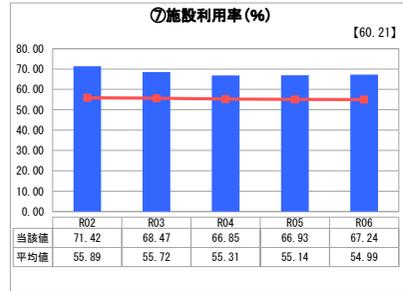
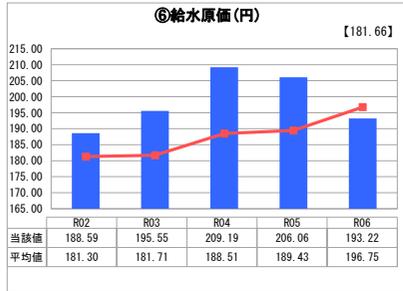
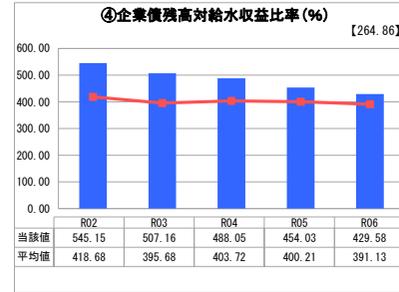
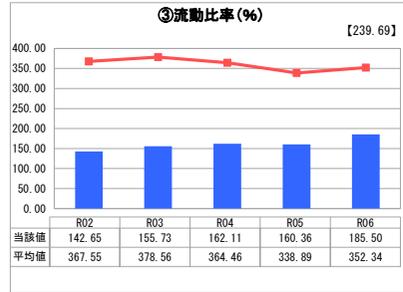
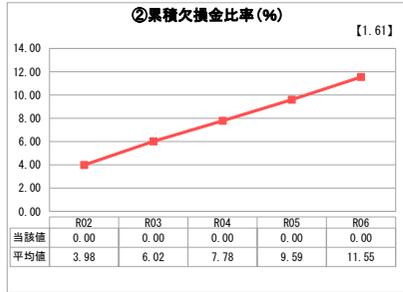
宮城県 高橋町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)	
-	59.01	90.86	3.311	

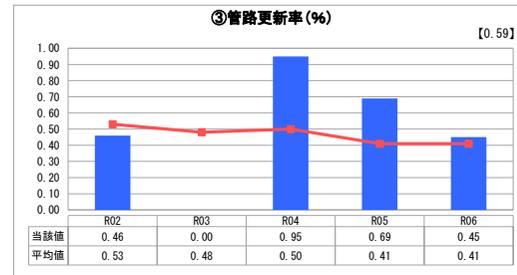
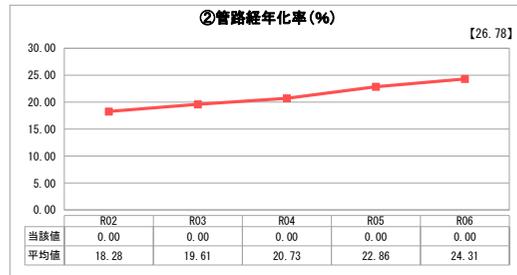
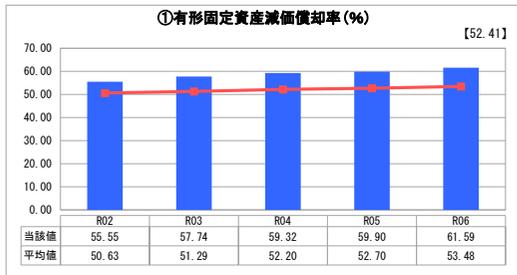
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,275	43.80	440.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
17,430	10.28	1,695.53

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
令和5年度と比較すると、営業外収益の増及び営業費用の減によって経常収支比率は大幅に増となり、類似団体平均を上回った。数値も100%を超えており、現時点では健全な水準にある。
- ②累積欠損金比率  
欠損金がないため、健全な状態にある。
- ③流動比率  
類似団体平均は下回っているものの、企業債が減少傾向のため流動比率は上昇傾向にあり、数値も100%を超えて健全な水準にある。企業債は、今後予定している施設更新等により増加すると考えられるため、流動資産の確保に努めていく必要がある。
- ④企業債務高対給水収益比率  
企業債務高が年々減少傾向にあるため、企業債務高対給水収益比率も減少傾向にあるが、今後予定している施設更新等により増加すると考えられるため、流動資産の確保に努めていく必要がある。
- ⑤料金回収率  
100%を下回っているが、令和6年度は令和5年度と比較して大幅に増となった。今後も100%前後で推移していくと推察されるが、費用の削減等により積極的に取り組む必要がある。
- ⑥給水原価  
令和5年度と比較すると、経常費用の減及び長期前受金入額の増によって給水原価は減となり、類似団体平均を下回った。今後も経費の削減等に努めていく。
- ⑦施設利用率  
類似団体と比較して高い水準で、適切且つ効果よく水道施設を利用できており、良い状態を維持できている。
- ⑧有収率  
令和5年度と比較すると若干低下したものの、類似団体と比較して高い水準である。今後も漏水調査等を計画的に実施し、効率の良い運営をしていく必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率  
類似団体平均値より高い水準であり、年々増加している。管路経年化率や管路更新率を見ると、管路更新は適正に実施できているため、今後は施設についても定期的な更新が必要となる。
- ②管路経年化率  
管路経年化率0%のため、適正に管路更新が実施できている。
- ③管路更新率  
類似団体平均値より高い水準ではあるが、今後も計画的な管路更新の実施が必要となる。

## 全体総括

計画的に管路の更新を実施しており、あわせて漏水調査や修繕を実施しているため、有収率は高水準である。企業債務高対給水収益比率は減少傾向にあるものの、今後予定している施設更新等により増加すると考えられる。有形固定資産減価償却率も増加傾向にあるため、今後も健全かつ効率的な経営を継続しながら、水道料金の見直し等も含め、管路や施設等の整備を計画的に実施していく。